



公益財団法人

電気通信普及財団

第13回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコムシステム技術学生賞～

入賞

「M-Ary Orthogonal Keying under Carrier Frequency Offset」

(IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences
Vol.E79-A, No.9, pp.1102-1108, Sept.1996)

西永 望 名古屋大学大学院 工学研究科情報工学専攻

共著者 岩垂 好裕

M元直交符号スペクトル拡散通信で問題となるキャリア周波数オフセットによる劣化を改善する新しい直交拡散符号の提案を行った優れた論文である。

「Theoretical Analysis of M-ary/SS Communication Systems Using Racing Counters and a Hadamard Martix」

(IEEE Journal on Selected Areas in Communications, Vol.14, No.8,pp.1569-1575,October 1996)

大内 浩司 茨城大学大学院理工学研究科
博士後期課程情報システム科学専攻

共著者 羽瀨 裕真、ハセガワ タカアキ

スペクトラム拡散通信における新しい受信同期方式を提案したもので、通信技術の発展に貢献した優れた論文である。

「波長分割多重光スイッチングネットワークの構成法」

(電子情報通信学会論文誌 Vol.J80-B-I No.3, March 1997)

長田 武士 早稲田大学理工学部電子通信学科

共著者 瀬崎 薫、安田靖彦

非閉塞光スイッチングネットワークの構成要素となる単位スイッチの構成法と制御アルゴリズムの提案を行ったもので、独創性に富む優れた論文である。

「Timed Reachability Analysis Method for EFSM-based Communication Protocols and Its Experimental Evaluation」

(Proceedings of 1996 International Conference on Network Protocols,
pp.92-99, Oct.29 - Nov.1, ohio, 1996)

長野 伸一 大阪大学大学院基礎工学研究科
情報数理系専攻博士課程

共著者 Yoshinori Hatakeyama、角田良明、菊野 亨

耐故障性と実時間性を共に備えたリスポンシブプロトコルの検証手法を提案した、新規性、有効性の高い優れた論文で

共著者 中川健治

ATMセル廃棄特性の解析を目的として新しいシミュレーション法を提案し計算時間を大幅に短縮すると共に精度の向上も実現した優れた研究成果である。

佳作

「ステレオ表示における奥行き知覚ひずみとその防止方法」

(テレビジョン学会誌 Vol.50, no.9, pp.1256-1267 1996)

石樽 康雄 豊橋技術科学大学大学院博士課程

共著者 大塚作一、金次保明、吉田辰夫、白井支朗

2眼ステレオ画像の奥行き知覚歪みについて知覚実験を行い、画像歪みの原因を心理現象としてとらえ、その有効な解決法を提案した優れた論文である。

「雑音と残響のある環境下でのHMM合成によるハンズフリー音声認識法」

(電子情報通信学会論文誌 D-II VOL.J79-D-IINo.12 pp.2047-2053 Dec.1996)

滝口 哲也 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科

共著者 中村 哲、鹿野清宏

音声認識において隠れマルコフ合成法を提案し、雑音や残響のある場合についても認識を可能とする手法を開発した優れた論文である。